

主体的に学習に取り組む子供の育成 ～デジタルを活用した学習活動を通して～

「バランス×仕掛け×場づくり」で
学習者の主体性を引き出す

◆授業者の振り返りより◆

子供の学びの変容

学習ツールの選択肢を増やすことで、子供同士が関わり合いながら主体的に授業に取り組んでいた。

ゴールが明確になることで、子供たちは習得の時間で学ぶ意義を捉え、自分の提案する文章に生かすために学ぶという意識が高まった。

習得と探究の段階を明確に意識させたことで、習得の段階で得た知識を活用しながら、探究の段階で考えを深めようとする姿が見られた。

振り返りを蓄積し、共有することで、子供自身が他者の意見を参考にしながら、自分の考えを深めることができるようになった。

学習方法を検討させたり、選択させたりすることで、子供同士が自然にコミュニケーションをとって学びを深めようとする姿が多く見られた。

授業後の考えの変化

低学年は教えないといけないと思いついでいた。今後は委ねることを恐れず、子供が主体的に学ぶ時間の設定を積極的に行っていきたい。

単元を通して子供が学習を調整する姿が見られるように、単元をデザインした。子供が学習を調整する力に着目することで、授業内容（教材）をいかに教えるかという視点からの単元構成だけでなく、子供がどのように学ぶのかという視点からの単元構成を考えることができるようになった。

今まで一斉の授業スタイルが多かったが、子供が個別にデジタルを活用した学びに取り組む中で、子供のつまづきを授業内でフォローをする余裕が生まれた。少人数授業だからこそ、他の教員との授業の共有手段として、デジタルを活用することが効果的だと気付くことができた。

◆「私」がこれから始めること◆

目指す子供（学習者）の姿

年 月 日記入

「私」が考えるこれからの授業

年 月 日記入

令和7年度東京都多摩地区教育推進委員会委員等

委員長 東京都多摩教育事務所 所長 小島 貴弘 **副委員長** 東京都多摩教育事務所 指導課長 加藤 治紀
部会長 府中市立府中第十小学校 校長 草刈 あずさ **部会長** 東久留米市立久留米中学校 校長 木下 信久
特別委員 青山学院大学 教育人間科学部 教育学科 教授 北澤 武

委員 <小学校>

国語 小平市立鈴木小学校 主任教諭 大畑 裕一
社会 府中市立武蔵台小学校 主任教諭 近野 千尋
算数 狛江市立狛江第五小学校 主任教諭 原 雄介
理科 小金井市立緑小学校 主任教諭 山崎 晃
音楽 西東京市立本町小学校 主任教諭 吉野 修平
図画工作 福生市立福生第六小学校 主任教諭 菅原 加奈子
体育 羽村市立富士見小学校 教諭 谷津 智久
外国語 東久留米市立第五小学校 主任教諭 高橋 光世
特別活動 立川市立第五小学校 主任教諭 細貝 俊稀

委員 <中学校>

国語 福生市立福生第一中学校 主任教諭 藤岡 雄祐
社会 八王子市立上柚木中学校 主任教諭 田代 憲一
数学 東村市立東村山第一中学校 主幹教諭 橋詰 貴
理科 日野市立日野第一中学校 主任教諭 加藤 裕保
音楽 武蔵野市立第四中学校 教諭 武藤 航平
美術 瑞穂町立瑞穂第二中学校 主幹教諭 高橋 佳来
保健体育 町田市立山崎中学校 主幹教諭 菅 新太郎
外国語 清瀬市立清瀬中学校 主任教諭 福田 真由
特別の教科 道徳 小平市立花小金井南中学校 主任教諭 武田 彩

東京都多摩教育事務所
第31次計画（通算第52年次）
報告書〔概要版〕

登録番号 7(1)

令和8年2月
編集・発行 東京都多摩教育事務所指導課
〒190-0022 東京都立川市錦町4-6-3
TEL 042-524-7222
印刷 有限会社 くらうん工房

令和8年2月

東京都多摩教育事務所

「バランス×仕掛け×場づくり」で学習者の主体性を引き出す

提案1

子供の主体的な学びを促す 単元（題材）デザイン

令和6年度の研究に基づく、習得と探究をつなぐ単元（題材）デザイン※を踏まえ、教師が「なぜ学ぶか」「何を学び、何が出来るようになるか」「どのように学ぶか」「どのように生かすか」の4点を明確にしたうえで、単元（題材）を最終時から構想する。単元（題材）最終時の子供の姿を想定し、子供が自ら学習を調整する機会を設定しながら、単元（題材）をデザインする。

ゴールイメージを想定する。	探究の段階	つなぐ	習得の段階
時間	最終時～第〇時		第〇時～第1時
学習を自己調整する子供の姿			
◎目標 ●学習内容 ・学習活動	単元（題材）構想時に、学習を自己調整する子供の姿や、デジタルの活用を考える。		
デジタルの活用			

習得と探究をつなぐ単元（題材）デザイン

習得の段階

基礎的・基本的な知識及び技能を習得し、課題を解決するために必要な力を身に付ける段階

習得の段階で身に付けた力を探究の段階で活用する。

つなぐ

探究の段階での必要感、気付き等に応じて習得の段階と往還する。

探究の段階

子供が自分自身の興味・関心や理解の状況に応じて課題を設定し、習得の段階で身に付けた力を活用して、主体的に課題を追究する段階

※ 令和6年度東京都多摩地区教育推進委員会 第30次計画 報告書より

※ 令和6年度
東京都多摩地区
教育推進委員会
第30次計画
報告書



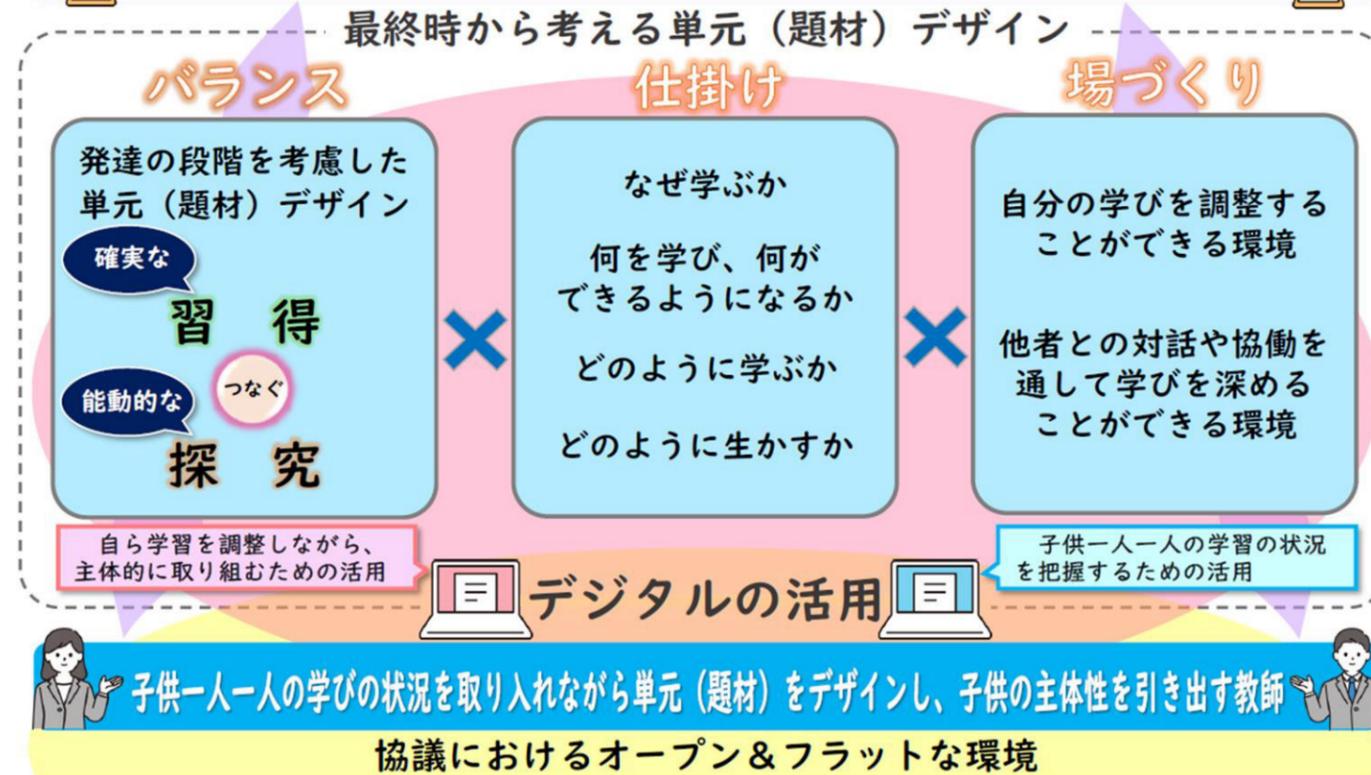
授業デザインシート
令和7年度
東京都多摩地区
教育推進委員会
第31次計画
報告書 P. 46 参照



委員の声



自ら学習を調整しながら、主体的に学習に取り組む子供



委員の声

単元を習得と探究の段階に分けることで、子供がゴールを目指していく過程をより細分化し、デザインすることができました。

なぜ学ぶか、学ぶ意義を子供がどのように実感するか等の視点で教材研究をするようになりました。

「批判的に」互いの授業を観察し合う取組を通して、子供の自由度が高い授業をデザインする視点を獲得することができました。

協議内容や時間を委ねられた中で悩んだ自分たちは、授業での子供たちと同じではないかなと気付きました。

「信じて委ねる」という言葉の通り、全てを大人が導くのではなく、子供自身の気付きや学習の調整、子供同士の学び合いが起こることを待つことで、子供自身に学び方そのものを育む契機とすることができました。

提案2

子供の主体的な学びを支える デジタルの活用

子供が、毎時間の振り返りや板書の記録等、学びを蓄積し、自ら学習を調整できるようにする。教師は、単元（題材）デザインの段階で、デジタルを活用して、自ら学習を調整する子供の姿を明らかにし、学習の履歴を確認しながら、個に応じた指導・助言・支援に役立つ。



(参考) 所報「たまじむ」 通算第108号
「ICT活用の特性・強みを生かした学びの充実」

過去の資料にいつでもアクセスできることや他者の考えを瞬時に共有し、参照できることなどの手だてにより、子供の学びを深めることができました。

対話をする時間を意図的に設けるだけでなく、デジタルで他者の意見を瞬時に共有することで、子供の考えの広がりや深まりにつながりました。

提案3

報告書 P. 44 参照

オープン＆フラットな環境の中で考える 子供に学びを委ね、伴走する教師

子供に学びを委ねるには、教師自身にも任される経験や自ら決める経験が必要であると考え、協議会等では委員が意見を表出する機会を多く設定した。

協議におけるオープン＆フラットな環境

- ◆ オープン：多様性
誰にでも機会があり、参加できること
- ◆ フラット：心理的安全性
安心して意見を言え、円滑に話し合えること

習得の段階において、デジタルのテストで瞬時に自分の得点を把握することや、繰り返し挑戦できることが非常に効果的でした。子供が知識の定着に向けて粘り強く取り組む姿を見ることができました。